



[友朋会広報誌]
vol.55 [初夏号]

労働安全衛生委員会

風だより

地域医療への挑戦

- 思春期外来「とまり木」開設
- 放射線科画像情報デジタル化について

ニューフェイス

友朋会創立40周年を迎えて

労働安全衛生委員会だより

お知らせ・トピックス

- ホームページ案内
- 町政表彰
- 編集後記

労働安全衛生委員会
友朋会広報誌



原典当初の病院の風景。車のスタイルから歴史が感じられる。建物の場所は現在敷地があるあたり



病院当初女子実業病院だったこの建物は、現在訪問介護センターに



「原点を見つめ、歴史を認識し、そして、夢を描き、足元を固める」

医療法人財団友朋会姫野温泉病院の開院は昭和40年3月7日です。個人病院として精神科単科の1000床で開設されました。当時の名称は姫野病院でした。創設者である故中川保孝創設理事長は精神障害者が社会復帰できる、芸術療法を実践できる、そして、今までにはない精神科病院を夢みていました。その夢は存命中の35年間に想像以上に実現できたと思います。しかし、本人とすれば、夢半ばであった事も事実です。



文芸記者 中川保孝

迎えて 友朋会創立40周年を

「中川保孝の夢の先には何があったのか、具体的にには漏れとなった『老年期痴呆（老年痴呆）の総合福祉施設を創設したい』旨を書いています。現在、介護保険で言われているところの小規模多機能施設設があり、さらにその夢の先にあつたものは、私自身も想像はできるものの、具体的な話としては聞き及んでおりません。

ただ、「中川保孝の夢の続き」をおえて想像する必要はありません。中川保孝は我々に、患者さんのためにという信念を植え付けて、残してくれました。現在の友朋会にある30以上の建物、入院・入所で900名以上となる療養建物としてはこれらはいつか寿命がきます。しかし、私たちは中川保孝が、患者さんのためにという理念のもと、論議場面に夢を追い、その夢をどこまで実現してきたかの当たりを見てきました。患者さんのためにという理念は友朋

会が狭く限り永遠なものであり、職員一同の「このころの財産」として強く認識されています。私たちは「患者さんのために」真摯にさえなれば、夢の続きは患者さんに教えてもらえます。いうことを知っています。今年から厚生労働省は痴呆症を認知症と呼称するようになりました。中川保孝は、認知症（老年痴呆）の患者さんを「ちほう」ボケ老人と呼ぶことを嫌い、「ものわすれ老人」と呼んでいました。患者さんのために、純粹に考えていただけです。

創立40周年を機に、6年前に医療機能評価受審用「明文化」した現在の理念友朋会は医療・福祉を地域で立場になって考え、地域医療に貢献できるように努力し、患者さんのために「変革したい」と思います。「原点を見つめ、歴史を認識し、そして、夢を描き、足元を固める」そのような節目の年にしたいと考えております。

労働安全衛生委員会第2報



文一 志麻 子 委員長
労働安全衛生委員会
安全管理者

〈セルフケア〉

労働者自身がストレスや心の健康について理解し、自らのストレスを予防、軽減、対応する。



〈ラインによるケア〉

労働者と日常的に接する管理監督者が心の健康に関して職場環境などの改善や労働者に対する相談対応を行う。



4つのメンタルヘルスケア

〈事業場内産業保健スタッフなどによるケア〉

事業場内の健康管理の担当者が事業場の心の健康づくり対策の提言や推進を担い、労働者及び管理監督者を支援する



〈事業場外資源によるケア〉

事業場外の機関及び専門家を活用し、支援を受ける。



前回は、委員会のお知らせをさせて頂きました。今回からは、少しずつ「労働衛生教育」につながるような情報提供をしたいと思っております。

2000年8月9日、労働者より「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」が提示されました。その中で、メンタルヘルスケアとは事業場において事業者が行うことが望ましい労働者の心の健康の保持促進のための基本的な措置と定義されています。労働者個人だけでなく組織が責任もって労働者の心の健康管理をしましょうというのがねらいであると考えます。

具体的には図に示すような4つのメンタルヘルスケアが継続的かつ計画的に行われることが重要であるといわれています。

メンタルヘルスケアは、労働者個人のストレス対策だけでなく、労働環境の改善や職業病への支援等多岐に渡ります。

労働安全衛生委員会の活動はこの図の中で（事業場内産業保健スタッフなどによるケア）に位置づけられると思いますが4つのケアが十分機能する為のパイプ役でもあるといえます。つまり、労働者と管理監督者の双方のサポートを行い、職場環境の実態把握・評価・改善、労働者への相談対応、事業場外資源とのネットワーク形成を行うといった役割があるということです。活動を通して、労働者の心の健康に早期発見・早期対応を行い、健全な職場づくりに貢献していきたいと思っております。



セラピールーム



徳島県野上から谷口、豊松、三好



児童思春期相談室「とまり木」 がオープンしました

高松西之 三好徳行 谷口研一朗 徳島児童発達障がい相談室スタッフ一円

児童思春期相談室は精神医学の中でも特殊性があり、ご本人が成長途上であること、家族の影響を受けやすいこと、薬物療法中心でなくカウンセリング

近年、未成年者に関連した問題や事件、事故がマスコミに連日報道されています。少子化が進んでいる中、不登校、不満足など学校内での問題は、数の増加よりは、むしろ深刻化・複雑化している状況です。したがって、当院は基本理念である「地域医療が実践できる病院」として、児童思春期問題に対して取り組みました。地元の小学校、中学校でのスクールカウンセラーとして活動しながら、児童思春期疾患に対する多職種によるスタッフグループを形成し、平成15年6月から児童思春期相談室を立ち上げ、児童思春期専門外来を正式に発動致しました。また、あくまでも、地域との連携をベースに考え、藤津・鹿島地区の小・中学校の養護教諭との研修会も行ってまいりました。

近年、未成年者に関連した問題や事件、事故がマスコミに連日報道されています。少子化が進んでいる中、不登校、不満足など学校内での問題は、数の増加よりは、むしろ深刻化・複雑化している状況です。したがって、当院は基本理念である「地域医療が実践できる病院」として、児童思春期問題に対して取り組みました。地元の小学校、中学校でのスクールカウンセラーとして活動しながら、児童思春期疾患に対する多職種によるスタッフグループを形成し、平成15年6月から児童思春期相談室を立ち上げ、児童思春期専門外来を正式に発動致しました。また、あくまでも、地域との連携をベースに考え、藤津・鹿島地区の小・中学校の養護教諭との研修会も行ってまいりました。

リングや遊戯療法、行動療法など多方面のアプローチが必要などがあります。特にAD/HD、高機能自閉症などの発達障害の概念は比較的難しく、その対応は最新の医療情報を存ながら進めなくてはなりません。

平成15年1月24日、児童思春期外来棟「とまり木」がオープンしました。木々に囲まれた静かな雰囲気の中にあり、積み木の家という外観です。「心の科を休める場所」として、子どもたち、若者たちがほっとできる「ホーム」をイメージし、待合室は家の中のリビングのように仕立てました。1階は療法を行うセラピールーム、2階は面接を行うカウンセリングルームと箱庭療法ができるプレイルームがあります。

心の問題、家庭内の問題を抱えた子どもたちに、ひとりでも多く、笑顔が戻ってこられるように、スタッフ一丸となつてがんばりたいと思います。



「デジタル画像には自在に画像処理を行うことにより診断の目的に合った最適な画像が得られる大きな利点があります」

放射線科にCRおよびDRシステム導入 デジタル画像と画像管理システムについて

文=放射線医師 天本祐平

この度当院放射線科にCR (Kangaroo Radiology, mpix)とDR (Digital Back, spax)が導入されました。両者とも、画像信号の計数処理により画像を焼き出すデジタル画像法の代表的なもので、CRはそれを世界で初めて開発した製作者(富士フイルム)の頭文字Fを冠して一般にF CRと呼ばれていますが、主として一般撮影に、DRはX線テレビ装置に組み込まれて主として透視画像の撮像に用いられます。これら装置の導入により、本院のX線画像は既存のCTを含めて全てデジタル化されることとなります。

X線画像のデジタル化による画像管理システムの構築は、かねてより将来計画の一つとなっていました。この度のCR、DRの導入はその第一ステップとなるものです。デジタル画像法にはどのような利点があり、また、デジタル化によって当院における画像の管理・運用が今後どのように変わら

うとしているのか、以下に述べさせていただきます。X線の発見以来画像を写し出す媒体として用いられてきたフィルムは像の精密さにおいて極めて優れ、近年段階の進歩を遂げたデジタル画像といえども、画像の結像度という点ではまだフィルム画像にかないません。しかし、フィルムに写し出された画像は固定された不可変のものに対して、デジタル画像には自在に画像処理を行うことにより診断の目的に適った最適な画像が得られる大きな利点があります。また、デジタル画像システムには画像の保存と伝達において大きな利点があります。保存面では、デジタル画像はDVDに収録されて1台の書籍型キャビネットに20~30年分が保存でき、これまでの方がフィルム庫は要らなくなり、画像の管理運用面でもさらに期待されるのは伝達性です。デジタルで撮られた画像は、離れた場所にいる

とされている次の以下に送らせていただきます。X線の発見以来画像を写し出す媒体として用いられてきたフィルムは像の精密さにおいて極めて優れ、近年段階の進歩を遂げたデジタル画像といえども、画像の結像度という点ではまだフィルム画像にかないません。しかし、フィルムに写し出された画像は固定された不可変のものに対して、デジタル画像には自在に画像処理を行うことにより診断の目的に適った最適な画像が得られる大きな利点があります。また、デジタル画像システムには画像の保存と伝達において大きな利点があります。保存面では、デジタル画像はDVDに収録されて1台の書籍型キャビネットに20~30年分が保存でき、これまでの方がフィルム庫は要らなくなり、画像の管理運用面でもさらに期待されるのは伝達性です。デジタルで撮られた画像は、離れた場所にいる

とされている次の以下に送らせていただきます。X線の発見以来画像を写し出す媒体として用いられてきたフィルムは像の精密さにおいて極めて優れ、近年段階の進歩を遂げたデジタル画像といえども、画像の結像度という点ではまだフィルム画像にかないません。しかし、フィルムに写し出された画像は固定された不可変のものに対して、デジタル画像には自在に画像処理を行うことにより診断の目的に適った最適な画像が得られる大きな利点があります。また、デジタル画像システムには画像の保存と伝達において大きな利点があります。保存面では、デジタル画像はDVDに収録されて1台の書籍型キャビネットに20~30年分が保存でき、これまでの方がフィルム庫は要らなくなり、画像の管理運用面でもさらに期待されるのは伝達性です。デジタルで撮られた画像は、離れた場所にいる

とされている次の以下に送らせていただきます。X線の発見以来画像を写し出す媒体として用いられてきたフィルムは像の精密さにおいて極めて優れ、近年段階の進歩を遂げたデジタル画像といえども、画像の結像度という点ではまだフィルム画像にかないません。しかし、フィルムに写し出された画像は固定された不可変のものに対して、デジタル画像には自在に画像処理を行うことにより診断の目的に適った最適な画像が得られる大きな利点があります。また、デジタル画像システムには画像の保存と伝達において大きな利点があります。保存面では、デジタル画像はDVDに収録されて1台の書籍型キャビネットに20~30年分が保存でき、これまでの方がフィルム庫は要らなくなり、画像の管理運用面でもさらに期待されるのは伝達性です。デジタルで撮られた画像は、離れた場所にいる

とされている次の以下に送らせていただきます。X線の発見以来画像を写し出す媒体として用いられてきたフィルムは像の精密さにおいて極めて優れ、近年段階の進歩を遂げたデジタル画像といえども、画像の結像度という点ではまだフィルム画像にかないません。しかし、フィルムに写し出された画像は固定された不可変のものに対して、デジタル画像には自在に画像処理を行うことにより診断の目的に適った最適な画像が得られる大きな利点があります。また、デジタル画像システムには画像の保存と伝達において大きな利点があります。保存面では、デジタル画像はDVDに収録されて1台の書籍型キャビネットに20~30年分が保存でき、これまでの方がフィルム庫は要らなくなり、画像の管理運用面でもさらに期待されるのは伝達性です。デジタルで撮られた画像は、離れた場所にいる

とされている次の以下に送らせていただきます。X線の発見以来画像を写し出す媒体として用いられてきたフィルムは像の精密さにおいて極めて優れ、近年段階の進歩を遂げたデジタル画像といえども、画像の結像度という点ではまだフィルム画像にかないません。しかし、フィルムに写し出された画像は固定された不可変のものに対して、デジタル画像には自在に画像処理を行うことにより診断の目的に適った最適な画像が得られる大きな利点があります。また、デジタル画像システムには画像の保存と伝達において大きな利点があります。保存面では、デジタル画像はDVDに収録されて1台の書籍型キャビネットに20~30年分が保存でき、これまでの方がフィルム庫は要らなくなり、画像の管理運用面でもさらに期待されるのは伝達性です。デジタルで撮られた画像は、離れた場所にいる

とされている次の以下に送らせていただきます。X線の発見以来画像を写し出す媒体として用いられてきたフィルムは像の精密さにおいて極めて優れ、近年段階の進歩を遂げたデジタル画像といえども、画像の結像度という点ではまだフィルム画像にかないません。しかし、フィルムに写し出された画像は固定された不可変のものに対して、デジタル画像には自在に画像処理を行うことにより診断の目的に適った最適な画像が得られる大きな利点があります。また、デジタル画像システムには画像の保存と伝達において大きな利点があります。保存面では、デジタル画像はDVDに収録されて1台の書籍型キャビネットに20~30年分が保存でき、これまでの方がフィルム庫は要らなくなり、画像の管理運用面でもさらに期待されるのは伝達性です。デジタルで撮られた画像は、離れた場所にいる

NEW FACE

新年度から21名の新しいスタッフが入社しました。
2名の医師から自己紹介をしてもらいました。



精神科医師 菅高一博

平成17年4月から1年間野原温泉病院に勤務することになりました。菅高一博です。私は医学部を卒業後、同大学の精神医学教室に入局し現在4年目になります。野原温泉病院は大変設備が大きい、患者様の数も多いです。しかし、患者さまのためにという理念の下スタッフの数も多く他職種に渡り、施設も非常に充実しています。その中で働けることが大変楽しみです。私も、患者様のために頑張りますので皆様、これからよろしくお願ひします。



内科医師 江口進二

簡単に自己紹介させていただきます。父親が小坂町で開業していた関係です。小坂町に住んでいましたが、出身大学は山陰の鳥取医科大学です。普通ならば一歩行く機会はないであろう所ですが、由がりなりにもスキーを覚えることが出来た点は良かったと思っています。卒業後は佐賀医科大学内科(途中1年間は好生期)で研修をさせて頂き、循環器部門に所属させて頂きました。余り調子を掴む間もなく、平成3年6月、平成16年3月まで伊予市にある社会保険済之崎病院に勤務しました。済之崎病院は長崎県松浦市との

県境にあり、健診に力を入れている病院でしたので、病院の近所の住宅街にある病院病舎に住みながら、主に予防医学関係の仕事に従事してまいりました。平成16年4月より突然武雄市民病院勤務になったため、武雄市民病院の近所に引っ越しました。今回友朋会でお世話になるようになつてからも、子供が4人いて再度引っ越しするのでも大変なことと、現住所でも比較的通勤は楽なこともあり、そのまま住みついていきます。卒らぬ点も多いと思いますが、御指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

新入スタッフの紹介

- 田中愛 (薬剤師)
- 三根理絵子 (薬剤師)
- 濱上愛 (作業療法士)
- 田中久美 (理学療法士)
- 藤井真由美 (理学療法士)
- 久保智子 (心理士)
- 内田友代 (精神保健福祉士)
- 芦塚栄一 (精神保健福祉士)
- 小野植子 (介護福祉士)
- 中村千穂 (歯科衛生士)
- 古庄望 (看護補助者)
- 奥野伊代 (看護補助者)
- 藤原みか (看護補助者)
- 松尾久美子 (看護補助者)
- 井守智太 (看護補助者)
- 土橋恵子 (看護補助者)
- 山口寛文 (看護補助者)
- 真島佳奈恵 (看護補助者)
- 中野悠 (看護補助者)



ホームページのご案内



ものわれメンタルクリニックホームページ
<http://www.monoware-mc-dr-clinic.jp/>

福岡市にあるサテライトクリニックであるものわれメンタルクリニックのホームページです。
アイデアや外来の案内、認知症に関するお問い合わせなど受け付けています。

友星会嬉野温泉病院



友星会嬉野温泉病院ホームページ
<http://www.yuoshukai.com/>

嬉野温泉病院をはじめ関連施設の紹介をしています。入院、外来の案内、診療療法の紹介等もごさいます。
また各種お問い合わせのほか、医療、介護、福祉に関する相談も受けておりますので、お気軽にお立ち寄りください。



トピックス



中川理事長（前列左から2番目）、一ノ瀬院長氏（2列目左端）

平成16年11月3日嬉野町町文化センターにて、平成16年度嬉野町町政功労者表彰が行われました。産業振興や地方自治、教育文化などに貢献があった方々の中から、当院より施設管理課一ノ瀬典隆氏が勤続労の表彰を受けられました。
一ノ瀬氏は昭和52年からの永年に渡る総務的勤務が評価されました。おめでとうございます。
また法人表彰として嬉野温泉病院も社会福祉の分野で、地域文化活動に対する感謝状をいただきました。

嬉野町町政功労者表彰



ご意見ご感想は

会館 友星会嬉野町大学下宿219-19
理事長 中川 圭彦
「風だより」編集委員会
電話 0956-43-0157
Email info@yuoshukai.com まて

○ 編集後記 ○

「風だより」の誌面をリニューアルしました。これまで院内行事などを主に紹介していましたが、今後は地域の方々にも親しみやすく、役に立つ内容にしていきたいと考えています。最近ではどの病院や施設でも広報誌に力を入れており、内容的にも充実したものが多いようです。「風だより」も地域医療に貢献できる情報誌として皆様におられるよう、編集委員一同努力したいと思っております。

友朋会の理念

患者様のために

理念に基づく基本方針

1. 患者様一人ひとりの立場になって、提供すべき医療・福祉を考え、実践する
2. 愛情のある医療・看護・介護・福祉・リハビリを実践する
3. 患者様が真に社会(家庭)復帰できるための援助をする
4. 芸術療法を実践する
5. 治療空間としてのアメニティーを重視する
6. 地域に必要とされる医療を実践する
7. 認知症への取り組みにおいて地域のリーダーとなれるよう努力する
8. 児童・思春期の精神医学分野においてその専門性を高める
9. 院内におけるチーム医療および地域の関係諸機関との連携を強化する
10. 医療従事者として自己研鑽に精励する

職業倫理に基づく行動指針

1. 患者様の自己決定権を尊重する
2. 患者様が自己の情報を知る権利を保証する
3. 患者様がセカンドオピニオンを求める権利を保証する
4. 患者様に安全で質の高い医療を提供することに最善を尽くす
5. 患者様に医療的な説明を十分に行う
6. 患者様に治療に関する同意を確実に得る
7. 患者様の「基本的人権」を保障する
8. 患者様の尊厳を保つ
9. 患者様の終末期医療について理解を深め、その実践に努力する
10. 患者様の個人情報を守る

*平成17年5月1日付けで理念と基本方針を変更しております。また、行動指針を追加しております。

医療法人財団

友朋会

〒843-0301

佐賀県唐津市藤野町大字下宿2-1919

電話 0954-43-0157

FAX 0954-43-3440

塘野温泉病院 0954-43-0157

精神科デイケア・ナイトケアセンター 0954-43-0157

老人デイケアセンター 0954-43-0233

介護老人保健施設 朋寿苑 0954-42-2900

友朋会介護サービスセンター 0954-20-2531

痴呆性老人グループホーム 千寿荘 0954-43-0157

ものわすれメンタルクリニック 092-534-5151

〒815-0082 福岡市大橋2-19-29ピュアドームエレガント(平塚)4F

